

## 日々思うこと 鵜縁 臨床文藝医学会監事(薬剤師)

---

調剤薬局に勤めて1から2年目のころであったと思う。

薬剤師の集まる研修会の講師としてお招きした消化器内科の先生と打ち上げをしていた時のことである。その医師がどのような会話の流れであったかは覚えていないが、「薬剤師さんは患者を診れないのに、よくそこまで出来るね。」とおっしゃったのである。本当の意味はわからないし、ごもつともなのだが、私はとても虚しい気持ちになったことを覚えている。

ひとや状況によっても異なるが、薬はいろいろな意味でその人の生活のほんのごく一部でしかない。その薬が、生活に悪影響を及ぼさないように最も気をつけて仕事をしている。副作用だけでなく、薬を飲むことに時間に追われてしまっている方や薬の服用にかなりの時間をとられてしまう方も少なくない。

この臨床文藝に集まった先生方のお話やブログを拝見していても、私には何も文章として残せるような物語はない。やはり、患者を医師や看護師のように観ることができないのだと思う。

薬剤師は薬を調剤すること、薬の適正使用のために疑義照会や服薬指導をすることしかできないのだろうか。薬剤師のドラマのタイトルであったようにアンサンングでありたいと思うわけではない、ましてやヒーローになりたいわけではないが、少しでも患者に豊かな時間を過ごしてもらえるように目の前のことを淡々とこなしていこうと思う。